

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホームの役割の変化を踏まえてこれまでの理念を職員全員で見直し、住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続を支えるという視点を理念に加えた。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々のサービスの提供に当たって拠りどころとする理念をリビングに掲示すると同時に、ミーティング等で日々の生活の場面に活かされることの大切さを話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用時や面会時のほか、地域の方々には行事に参加していただいた時や運営推進会議において、サービスの提供に当たって拠りどころとしている考えを伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>散歩の際、挨拶をしたり声を掛け合っている。地域活動ではゴミ拾い、草取り、行事に参加している。運営推進会議の中で、地域の方からの認知症や介護サービスについての質問に答えている。</p>	<p>○</p> <p>今年度に参加した住民協議会などを活用して、地域の人々が自由に立ち寄り、交流できる機会を増やすための課題について相談していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>今後、地域のニーズなどをくみ上げ、それを足がかりにするなどして行き来する機会を増やしたい。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>現在制度を利用されている方や相談はないが、今後にも備え、相談者等に全職員が分かりやすく説明できるように研修を通じて理解を深めて行きたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>研修会を行うなどして定期的に確認し、さらに理解を深めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明書をもとに方針やサービス内容について説明している。入院に当たっては再度不安がないか尋ねて、その都度説明している。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>散歩、入浴、買い物などについて気軽に話せるように訪室して個別に話しを聞く機会を設けている。家族にも協力していただき、面会時に職員に話せない不満、苦情等些細な事でも利用者から聞かれたときは伝えてもらうよう声を掛けている。意見等が出された際は、本人の視点で対応策を検討している。</p>	○ 利用者にも運営推進会議のメンバーに加わっていただき、思いや意見をオープンに言える機会を設けている。
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヵ月毎のたよりのほか、面会時に生活状況や健康状態の報告や金銭管理状況などを確認して頂いている。健康状況等に関しては、変化が見られた都度電話で情報交換している。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会后 家族と話し合いの時間を設け、その都度要望等の確認を行っているほか、玄関に意見書を設置している。サービスの質の引き上げのために不可欠であることを繰り返し説明し、協力を要請している。</p>	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、ミーティング、カンファレンスなどで意見や提案を聞き、運営の改善やサービスの向上につなげている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況にあわせ勤務体制の見直しや調整を行っている。また、緊急時は併設の特養からの協力も得られる体制が整っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動は最小限とし、1ヶ月間は交代者と共に業務に就き馴染みの関係づくりができるように支援している。また、異動後も行事などの機会を利用して訪問して頂くよう依頼している。		
5.人材の育成と支援			
17 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期購読誌や併設の特養からの研修資料の回覧などのほか、研修内容と本人の経験などを踏まえて外部研修に参加させている。研修後、重要な内容はミーティング等で報告しているほか回覧、保存し、新人職員等の資料として活用している。		
18 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で交流する機会を持ちネットワークを広げている。また、お互いに情報交換したり見学したりしてサービスの質の向上を図っている。		
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務の負担軽減を図る為 ミーティング等で出された意見は全員で話し合い業務内容の見直しを行っている。法人内の互助会があり、3カ月毎のボウリング大会のほか忘年会などを通じて親睦を図っている。		
20 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修の受講や資格取得について 勤務調整を行い個々がスキルアップできるようにしている。職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報共有をしながら、家族と共に話し合い一緒に支えるために協力しあっている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	気軽に面会や行事に参加できるように声がけし関係が途絶えないようにしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブの際は自宅の前や地域を通ったりしている。自宅への帰宅も家族の協力を得ながら支援している。遠方にいる家族には、電話や手紙のやり取りをし関係を継続できるようにしている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間、散歩、ドライブ、家事の時間のほか、個別に話しを聞く時間を設け相談に乗っている。気の合う者同士で過せる場面を演出したり、皆で楽しく過ごせるよう、職員が調整役になっている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、いつでも相談に応じることを伝え、併設の特養に入所した方には、退居後も職員に状況を伺ったり、面会に行ったりしている。また、本人もホームに気軽に遊びに来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや希望を伺い、実現できるように介護計画を立てている。困難な場合は記録を分析して問題を明確にし、本人本位に対応策を検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用時に本人、家族、介護サービス事業所から情報を提供していただき、介護計画やホームでの暮らし方に役立てている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日のミーティングや申し送りノートで本人の生活のリズムを把握し、本人が出来ることに注目しながら全体の把握に努めている。</p>	
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたっては、今の暮らしがよりよくなるにはどうしたら良いのか家族、本人、職員とでアイデアを出し合って作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとに評価し、変化がなければ認定期間内に、変化があればその都度、本人、家族、職員と話し合いをしながら見直している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいた実践、結果は個々のケースに記録し1ヶ月ごとに評価し見直しと情報の共有に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院・外出・外泊の送迎支援は柔軟に対応している。		
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や地域の消防団の協力を得ている。		
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、希望する方がいない。	○	必要時にはサービス事業者と話し合い支援していきたい。
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人からの希望や必要性がなく、共同していない。	○	必要時には連携して支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に希望する病院、通院方法などについて確認し、適切な医療を受けられるように支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時に同伴して日頃の状況を報告すると同時に必要に応じて助言を頂いている。また、病状に変化があれば通院等、必要な支援を行っている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設の看護師に相談したり支援を受けている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時見舞いに行き医療機関等と情報交換しながらグループホームの入居者という事情を伝え、早期に退院できるよう相談している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合について確認し合っているが、ユニット型の特養に併設しているという事情もあって、グループホームでの終末を希望される方はいない。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	短期間の看取りケアについては、今後検討していく必要がある。	○	今後に備え、出来ること出来ないことなどについて整理していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居先に細かく情報提供している。併設の特養への入所や入院時は場合は面会に行き、その都度情報交換をし、問い合わせが合った場合、情報を提供しダメージが最小限になるように配慮している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングで日々の関わり方で、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応が出来ているか話し合う場を設けている。個人情報本人、家族の同意を得てから使用している。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>介護計画やカンファレンスに参加していただき、本人の要望を聞き計画を立てている。日常の生活の中でも、本人の意思を確認しながら利用者本位の暮らしが出来るようにしている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に希望を優先している。朝のミーティングには利用者も参加し、その日をどう過ごしたいか聞き柔軟に対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみは本人の意向で決めており、本人の状態にあわせて、必要時、手伝うようにしている。支援が必要な方には本人の気持ちに沿うよう心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一連の作業を通じて 個々の利用者に応じた力を発揮する場を設け、職員と利用者が一緒に行っている。畑から取れた野菜や旬の材料を使用したメニューと一緒に考え料理し美味しく食べている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒が好きな方には、本人が好きな銘柄やお気に入りのグラスで毎日飲めるようにしている。喫煙する方は居ないが勝手口にはコーナーは確保している。おやつも代替を準備しており随時対応している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンをあわせており、状況に応じてサービスの見直しを行い、自立支援を心がけている。尿意のない方にも時間を見計らい誘導を行っている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉浴であり毎日でも入浴可能である。お湯の温度、時間帯や希望曜日など本人の希望に合わせて対応している。入りたくない場合は、時間をおいたり 次の日に入ったりして頂いている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方や、起床、就寝時間は本人のリズムになっている。眠れない方には生活リズムや活動内容の原因を探り、生活のリズム作りを支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人にあわせ 家事、花の世話、畑などの役割を持ち活動する機会を設けている。個々に合わせ散歩、ドライブ、買い物、趣味活動等の個別の支援のほか、地域の祭りやお花見、食事会、遠足等楽しみが持てるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方には所持して頂いている。普段所持していない方にも、外出時の清算時にはお金を手渡し、本人が支払いできるように支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添ってショッピング、ドライブ、散歩等の支援を行っている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	親戚、自宅等は家族の協力があり自由に外出、外泊が出来ている。花見や祭りには家族にも参加して頂き一緒に楽しめるようにしている。遠足や地域の行事も入居者の希望に添って企画している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限もなく自由にしていただいている。手紙のやり取りも併設の特養の事務に切手とポストが準備しており、出したい時に一人で事務まで行きポストに入れている。出来るだけ本人がポストに入れるように支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にお茶を居室に持って行き、気兼ねなくゆっくり過ごしていただくよう声を掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、ミーティングで禁止の対象となる具体的な行為を「サービス評価ガイドブック」などを通じて具体的に理解し、拘束のないケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けない自由な生活を支援している。玄関にチャイムをつけているが一人ひとりの状態を分かっているため、現在は使用していない。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所がリビングの中心に設置されているので、利用者と食事の準備をしながら、リビングの様子を見守っている。夜間は1時間毎に巡回し、安全に配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬に関しては、自己管理出来ている方以外薬は目の届かない場所に保管している。その他の物品も利用者の状況変化に応じて、保管管理が必要なものをその都度話し合いながら管理している。保管場所には鍵はついていないが現在使用していない。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況からリスクを想定し 職員間で話し合い、環境整備やマニュアルで確認し未然に防ぐ工夫をしている。事故発生時は事故報告書を作成し 原因と予防対策について検討し家族への報告を行っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアルを、毎晩、夜勤前に確認してから業務に入っている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	ホームでの避難訓練は火災が年2回、地震訓練年1回、併設の施設の協力も得られている。施設全体の訓練もあり、消防署並びに地区の消防分団の協力を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況からリスクを想定し 家族に状況報告と起こりうるリスクを説明し、理解して頂きながら 本人の望む生活が継続できるように、共に考えその都度対応策を話し合っている。		
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化が感じられた際は、すぐにバイタルを確認し、家族に連絡し早期に対応を話し合い通院している。又 併設の特養の看護師にも相談し助言を仰いでいる。	○	申し送り、ミーティングの際に利用者に変化がないか確認し合っている。少しでも変化が見られた際は申し送り、観察や対応を話し合っている。
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	持病の把握と服薬している薬の効能、副作用についてファイルにまとめて確認している。処方に変更があった場合 1週間身体に変化ないか観察しミーティングや申し送りノートで職員が周知できるようにしている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排泄表に記録し把握している。便秘の方には、適度な水分と運動を促しそれでも改善見られない際には服薬で対応している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力にあわせ、毎食後に声を掛けたり見守りし出来ない方には介助している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランス等については定期的に併設の特養の栄養士に助言を頂いている。糖尿病で食事療法が必要な方については、本人並びにかかりつけ医に相談して食事やおやつ量の調整、体重測定など必要な支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアル、併設の特養からの最新情報などをもとに勉強会を開いている。また、流行時期には併設の特養の看護師から助言をいただくと同時に、職員、利用者の同意を得て、インフルエンザの予防接種を行っている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用したまな板、ふきん、食器は毎日消毒している。冷蔵庫の点検消毒は4日ごとに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花のプランターを設置し、玄関脇には庭もあり訪問していただく方に楽しんでもらえるようにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には花壇に咲いている花を飾ったり、季節に合わせて壁掛けを入居者と作ったりし、季節感を感じれるようにしている。夜間、非常口の光がまぶしい方には、光が漏れないように目隠し個々にあわせている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	勝手口に、気の合った利用者同士で談笑できるようにベンチを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用時にホームでも自宅と同じ暮らしが継続できるように支援していることを説明し、馴染みの品やテレビ、冷蔵庫、椅子等持ち込んでいただき 本人が居心地良く過せるようにしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>冷暖房機器にのみ頼らず、AM2時、6時、PM2時に室温、湿度を確認し、記録、調整している。掃除の度や料理、排泄後も、都度、換気している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>台所のシンク、調理台は高さ70、80cmの二種類を用意し車椅子の方でも利用できる。利用者の状況に合わせ、トイレに手すりをつけたり立位が不安定な方には 洗面所に椅子を設置している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱や失敗の原因を追及し状況に合わせて環境整備を行っている。新たに混乱が生じた場合 その都度職員で話し合いをしている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内に庭や畑を確保し、日常的に楽しみや活動ができるようにしている。また、外の空気や景色を気軽にゆったりと楽しめるようにと、縁側を設けている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが る
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは、りんご畑に囲まれた静かな環境にあります。また、車で数分のところにショッピングセンターがあるので利用者は気が向いた時に買い物などを楽しみながら暮しています。入居者の殆どが地域の方なので、地域の行事に参加したり、顔馴染みの併設の特養入所者やサービスの利用者とも自由に行き来し、馴染みの仲間との関わりや地域とのつながりを実感しながら生活されています。また、入居者の思いを大切に、生きている喜びを実感して過ごしていただけるよう職員は常に利用者を生活の中心に据えてサービスを提供して、すべての利用者が穏やかで、安らぎのある暮らしを継続できるように支援しています。